

第3回高萩市立小中学校適正規模・適正配置検討委員会の開催結果

- 1 日 時 令和4年10月25日（火）午後2時～午後3時40分
- 2 場 所 高萩市役所4階 大会議室
- 3 出席委員 14名
加藤崇英委員長、小池洋一副委員長、稲野遼親委員、八重樫弘子委員、
今橋優子委員、綿引このみ委員、徳永彩香委員、斉藤えり奈委員、坪栄樹委員、
大足光司委員、田邊主計委員、小室博子委員、大武時男委員、今川敏宏委員
- 4 欠席委員 2名
岡部晃美委員、篠原智子委員
- 5 出席職員 大森壮一教育部長、岩間英人学校教育課長、
小森日路子教育総務課長、豊田長教育総務課課長補佐
- 6 内 容 議題
(1) 学校規模等に関する意見交換
(2) 小中学校の適正規模等に関する意識調査（中間報告）について
(3) 基本方針案について
- 7 配布資料 資料1 小中学校の適正規模等に関する意識調査単純集計
資料2 高萩市立小中学校適正規模・適正配置基本方針案
- 8 会議の概要

(1) 議題

(ア) 学校規模等に関する意見交換

学校が小規模になることにより生じる課題等についての意見交換を行い、委員から次のような意見があった。

- ・学級数が少なくなったことで、行事などの盛り上がりには欠けることがある。
- ・複数の小学校から1つの中学校に進学することで、新たな出会いなどメリットもある。
- ・多くの人数の中で競い合うことは、様々な面でプラスになることもあると思う。
- ・近所付き合いが少ない現在、地域で子どもを見守ることが少なくなった。保護者は不安。
- ・生徒数が少ないことで部活動の選択肢が少なくなっている。子ども達の選択の機会を増やしたい。

- ・部活動は生徒数が多かった時代から無いものもあった。
- ・部活動の指導者の地域移行により、部活動の選択肢の問題は変わるのではないか。
- ・子どもが少なくなることで、金銭面や PTA の役員回数など保護者の負担が増えている。
- ・学校が無くなった地域の住民の気持ちにも寄り添うべき。

(イ) 小中学校の適正規模等に関する意識調査（中間報告）について

令和 4 年 7 月に実施したアンケート結果の単純集計を示し意見を頂いた。以下、主な意見等。

- ・保護者も学校が防災の拠点として重視していることがアンケート結果から分かる。
- ・アンケートから統合に前向きであることが分かった。

(ウ) 基本方針案について

事務局が作成した基本方針案について意見等をいただいた。以下、主な意見等。

- ・基本方針中、必要が生じた際に見直すとあるが、様々なことが同時変化している時代である。定期的に見直す機会をつくるべき。
- ・基本方針中、“実施計画”の文言があるが“実施計画”について明らかにすべき。
- ・アンケート等では統合には前向きだが、スクールバスを用意してほしいとの意見が多い。財政負担が大きいスクールバスの運行についてシミュレーションしておくべき。
- ・基本方針中“地域との連携”の項目において、防災を別記し、防災拠点としての検討方法を明記すべき。

